

豊中の未来を描こう！！

発行 2024 年 11 月

VOL. 217

かんばんこういちろう

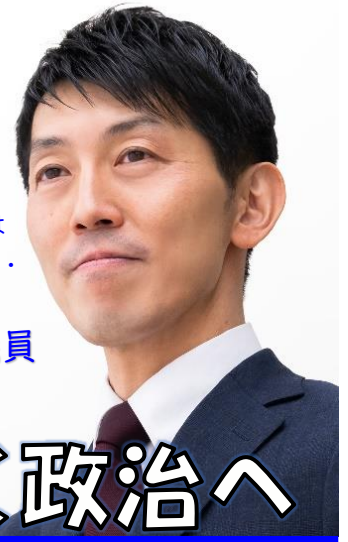
神原宏一郎の つながり通信

～生活・社会そして人・・・すべては政治とつながっている～

衆院選が終わり
私たちの生活や
社会に明るい兆しは
見られるでしょうか…

豊中市議会議員

無所属



関心・期待感・信頼感を抱く政治へ

2023 年度決算審査！！

学力向上の取り組み

～学習リズムや学習意欲の定着へ！！～

Q. 学力課題が大きい9校(小学校6校、中学校3校)に、学校の実態や課題に応じた学力向上の取り組みをしているが、学力課題が大きい学校の課題とは具体的には？

A. 既習事項の定着や、学習の基盤となる言語能力、情報活用能力等の定着、主体的に粘り強く問題に取り組む力などに課題がある。

Q. 学力課題の解消は図られているのか？

A. 課題改善に向かっている学校もあるが、「自分の意見や考えをまとめて表現すること」等の力の育成には、引き続き取り組む必要がある。また、事業実施校では、「分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる」という質問に肯定的に答える児童生徒が80%を上回る学校が3分の2以上あるなど、主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善を通して育成されるべき力が身につけてきている。引き続き、学力課題の克服に向け事業内容の創意工夫を行っていく。

☆要望☆

学力向上に関して重視すべきは、テストで何点取れるかということよりも、どれくらいの児童生徒に学習リズムや学習意欲が備わり、主体的な学びが確立されているかだと考える。そのような観点を重視して、取り組みを進めて欲しい！！

教職員の健康管理

～メンタルヘルスキアの強化を！！～

Q. 休職教職員数の推移は？また、主な休職理由は？

A. 令和3年度38人、令和4年度35人、令和5年度22人。児童生徒への指導に対する不安・保護者対応に対する不安・職場の人間関係を理由とした精神疾患が多い。

☆要望☆

メンタルヘルスキアに関する周知啓発に努め、教職員の精神疾患の未然防止に尽力して欲しい！！

体力向上の取り組み

～低調が続く豊中っ子の運動能力向上を！！～

Q. 児童、生徒の体力、運動能力は全国平均と比較して、どのような状況にあるのか？

A. 小中学校共に全国平均より下回っている。

Q. 体力や運動能力も課題校が存在するのか？

A. 実技面での結果が二極化しており、「運動が好き」「体育の授業は楽しい」との質問に対し、肯定的回答の割合が少ない等の様々な課題が生じている学校もある。

☆要望☆

どうすれば、少しでも多く子どもたちが運動することを楽しいと感じるようになるか、現状分析・調査研究を行い、体育の授業や体を動かすことを肯定的に捉える子どもが増えるよう努めて欲しい！！

読書離れ

～空間としての図書館のあり方とは！？～

Q. 市民の読書離れが進むことによる課題や弊害は？

A. 読書離れが進むことで、「知識の不足」、「批判的思考の欠如」、「語彙力の低下」などが指摘されており、理解力や思考力の低下、コミュニケーション能力に影響を及ぼす可能性などが考えられる。

Q. 読書離れを社会の変化、市民ニーズの変化と捉え、図書館のあり方も考える必要があるのではないかと？

A. 年齢とともに図書館の利用状況が変化する傾向は多く見られる。「場としての図書館の活用」は(仮称)中央図書館基本構想、図書館みらいプランに沿って取り組みを進めていく。

☆意見☆

読書離れを社会の変化、市民ニーズの変化と捉え、場所・空間としての図書館のあり方をより深く追求していくべき！！

別室登校支援員

～不安を抱える生徒への寄り添い強化を！！～

Q. 9中学校・1義務教育学校の校内教育支援センター（別室）に常駐の別室登校支援員を派遣しているが、別室登校支援員とは？

A. 別室登校支援員は、教室に入ることに不安を抱える生徒に寄り添い、見守るなど、学校内で安心・安全して過ごすことのできる居場所の運営等に関する支援をしている。

Q. 支援員を派遣した学校で支援した生徒数と、本市で別室登校をしている生徒数は？

A. 令和5年度に別室登校支援員を派遣した学校で支援した生徒数は、230人。別室利用生徒数は、令和4年度182人、令和5年度295人。

Q. 支援員の派遣による効果は？

A. 中学校在籍生徒数は増えたが、新規不登校生徒数は、令和4年度、令和5年度と変わらず抑制できた。さらに、令和6年度は、新規不登校生徒数が減っている。

☆意見・要望☆

別室は、非常に重要かつ必要不可欠な場所であり、支援員は不可欠な存在だと考える。可能な限り、早急に全校派遣を実現して欲しい。また、支援員の意義や重要性について、各学校長、学校現場の教職員の理解や認識の醸成にも努めて欲しい！！

子育て世帯訪問支援

～誰ひとり取り残さない支援体制を！！～

Q. 本事業は養育に課題を抱える家庭やヤングケアラーがいる家庭等を対象に、家事や育児に必要な支援を実施するものだが、想定している対象世帯数は？

A. 本事業の対象は400世帯を想定し、体制を整えながら、全対象世帯に利用してもらえるよう取組みを進める。

☆意見・要望☆

本事業に必要となる子育て支援と生活支援の両方に精通し、実績のある事業者は乏しいため、現委託事業者とは課題の共有を図りながら、課題解消に向けた手立てを講じるなど、担い手となる事業者の支援と共に、更なる担い手の拡大に向けて、事業者の開拓、募集に取り組むなど、体制強化に尽力して欲しい！！

修学旅行・林間臨海学舎補助

～無償化は嬉しいが・・・～

Q. 修学旅行及び林間臨海学舎の児童生徒一人あたりの額が最大の学校と最少の学校の金額は？

A. 修学旅行費の最大額は、小学校約2.9万円、中学校約6.3万円、最少額は、小学校約1.8万円、中学校約2.8万円。林間臨海学舎費の最大額は、小学校約2.3万円、中学校約2.3万円、最少額は、小学校約4千円、中学校約1万円。

Q. 本事業に対する市の評価は？

A. 教育活動の一環である宿泊行事に、全ての児童生徒が安心して参加でき、保護者の経済的負担を軽減することができた。一方、物価上昇が続く経済情勢の中、バス代や宿泊代などの値上がりにどのように対処していくかが課題と考えている。

☆意見・要望☆

修学旅行や林間臨海学舎の目的やねらいは、どの学校も同じはずだが、児童生徒一人当たりの費用に、修学旅行費では、小学校で最大約1.7倍、中学校で約2.3倍、林間臨海学舎費では、小学校で約5.4倍、中学校で約2.3倍の差があることには疑問がある。高額で実施している学校は、本当にその金額で実施する必要があったのか、一方で、少額で実施している学校は、十分な教育効果が得られたのか、検証すべき。本事業は全額公費負担（税金）で実施されていることも踏まえ、費用対効果を考慮して、全学校で情報共有を図り最小の経費で最大の効果を上げるよう尽力して欲しい！！

児童生徒の定期健康診断

～診断後の後追いや受診勧奨の徹底を！！～

Q. 健康診断で、要診察や要治療と診断された児童や生徒の受診や治療の状況は把握できているのか？

A. 通常、受診結果の状況は把握していないが、今回、各学校に対し、受診状況について調査を行っている。

☆意見☆

要診察や要治療と診断された児童生徒が診察や治療を受けているか把握し、受診勧奨につなげるべき！！

神原宏一郎の決算委員会での質問の全容はホームページをご覧ください。

<http://positive-square.sakura.ne.jp/>

神原宏一郎事務所(前向きひろば)

〒560-0021 豊中市本町 3-1-20 エルビル 2階
TEL&FAX:6854-5664

平日(土・日祝日は除く)の10時から17時はスタッフがおります。

young_spiritjp@yahoo.co.jp

<http://positive-square.sakura.ne.jp/>

※この通信物は、政務活動費を使用し発行しています。

発行元 大阪維新の会・無所属議員団(神原所属会派)

〒561-8501 豊中市中桜塚 3-1-1 ☎6858-2525(代表)

